

「諏訪湖における持続可能な漁業振興」ワーキンググループについて

諏訪地域振興局諏訪農業農村支援センター

1 概要等

諏訪湖創生ビジョンでは、目指す姿のひとつ「多種多様な生き物が育む湖」の中に「漁業の振興」を掲げている。

しかし、近年の諏訪湖は、ワカサギの漁獲量や採卵量の減少が課題となっている。

そのため、諏訪湖に適した漁業振興策について、漁業関係者、行政及び外部識者等において検討を進める。

2 R 6 の検討状況等

(1) 現状の漁業振興策の共有

- ・外来魚の駆除（諏訪湖漁協）
- ・カワウなど魚食性鳥類の追い払い（諏訪湖漁協）
- ・カワウ捕獲の試行（林務課、農農C、水試諏訪支場）
- ・ワカサギの採卵安定化（水試諏訪支場、諏訪湖漁協）
- ・テナガエビの資源量調査（水試諏訪支場）

(2) 課題の整理

- ・魚食性鳥類（カワウ、カワアイサなど）による被害
（漁業だけでなく観光資源（ワカサギ釣り客）としても重要な課題と認識）

3 現時点（R7.4）の課題と対応状況

・漁船による追い払いについては、効果はあるもののカワウなど鳥類の個体数が減少するわけではないので、個体数を減らす対策が求められた。

・カワウの1日当たりの捕食量は、300～500g程度と推定されているが、諏訪湖においてワカサギを捕食しているデータはなかったが、令和7年2月に諏訪湖内で死亡カワウが採取されたので、水産試験場諏訪支場で胃内を調査した結果、100尾程度のワカサギが確認された。

・カワウの個体数は、令和6年10月時点では301羽と観測史上最多（林務課調査による）

4 令和7年度の予定

魚食性鳥類による被害の軽減を図るため、諏訪湖漁業協同組合、水産試験場諏訪支場、林務課、環境課、野鳥の会等を含めたWGを開催する。

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
諏訪湖創生ビジョン 推進会議	計画報告(5.28)			
ワーキンググループ		第3回開催(8月頃) 魚食性鳥類の対策検討		
林務課 農業農村支援C		鳥獣対策の検討		
諏訪湖漁業協同組合	外来魚駆除		魚食性鳥類の追い払い	
水産試験場諏訪支場				ワカサギの採卵